

市政を問う

朝倉農業高校跡地の活用等

について活発な議論

質問者13人、傍聴者109人

草場 重正 議員

質問項目

- 1 教育行政について
- 2 福祉政策について
- 3 朝農跡地について



Q 市町村によっては、地域防災にボランティアセンター設置に関する役割分担を協定で締結している。こ

の協定書はボランティアセンター設置の根幹を成すものだけに、過去の活動実績を踏まえたマニュアルを作成し、十分な学習に加え、関係者が定期的に協議し、情報を共有することが大切である。災害発生後は、自治体と市社協が協議、事前に市民へ周知することが混

乱を防ぐ抑止効果になる。また、災害ボランティアセンター開設と同時に、センター運営を推進する組織体制を早急に整えるべきである。今後、朝倉市は市社協と連携しながら、災害ボランティアの育成に力を注いでいただくよう提言しておく。

常に大きなものと認識している。県レベルでの災害ボランティアセンターを立ち上げる。併せて市町村レベルでの2階建てで立ち上げるが、市の場合、市社協と市の災害対策本部がお互いに連絡を取り合うことが肝要である。

今後、市及び市社協の職員を研修会に派遣して、ノウハウを身につけさせる必要がある。それと併せて防災計画の見直しをやって、その中にボランティアを位置づけたいと考えている。

Q 災害ボランティアセンター設置について

A 今後、防災計画の見直しの中に位置づける

これら災害ボランティアセンター開設に対する市長の方針を伺う。

A 災害時におけるボランティアの役割というのは非

常にある。それと併せて防災計画の見直しをやって、その中にボランティアを位置づける。災害は忘れた頃にやってくる



災害は忘れた頃にやってくる

Q 朝倉農業高校跡地は、朝倉市民の宝になるのか

A 「なるのか」ではなく、「しなければならない」

整備を平成27年度に向けて検討を進めていく。

Q 総合的な体育施設は「共通の理解が得られている」の表現が（基本方針に）使われているが、根拠は何か。

質問項目
1 朝倉農業高等学校跡地活用について

中島 秀樹 議員



Q 朝倉農業高校跡地に、いっしょなものができるのか。

A 何らかの施設をつくらうとした場合、より財政手当が厚い合併特例債を使っていると考えている。全てのものを完成できる状況ではないが、総合的な体育施設の

Q 財政難のなか、体育施設をつくる必要性があるのか。

A ある。幅広い人たちが利用できることを考えたい。

Q 体育施設を維持管理する費用が相当かかるのではないか。

A 工夫をしなければならぬ。一定額がかかるとしても再編のなかで体育施設をつくっていくべきである。

Q 発展の源となるのか。

A 大きな大会ができるようになれば、広く市外から人を呼ぶことができる。



人と緑と未来の交流拠点にしたい

まず、農水省の新規就農総合支援事業の有効活用を

Q 2010年世界農業センサスの報告によると、朝倉市の経営耕作地のある世帯数は2,663世帯、経営面積は4,044畝で、いずれも久留米市、八女市

について県下第3位、販売農業経営者数も県下第3位である。

そして、自営農業に主として従事している年齢別就農人口比は、60歳以上が約7割で、その中の半分近くが70代で3割である。

このような実態から、新規に農業を始めようとする人たちに、積極的に支援する取組が一日でも早く実施されなければならないと考える。



平田 倖子 議員

質問項目
1 人づくりと情報の共有について改善策を問う
2 新規就農者の確保についての努力点を問う
3 朝倉市第5期介護保険事業計画策定について

A 担い手の育成は喫緊の課題であり、青年後継者の確保や、農業外からの新規就農者の育成定着化を目指し、各種の受け皿整備が必要と考える。

大きな課題は、施設面、収益面、相談に対する環境の整備であり、就農意欲の喚起と定着を図るため総合的な支援を行うことが必要

杷木地域にある新規就農者のいちご園



年間150万円の給付金が出る青年就農給付金の制度を、十分活用したい。

朝倉市独自の就農対策を是非お願いしたい

Q 新規就農対策について、市長の考えを問う。

A 農業所得の向上に市としての取組や、受け入れる側の意識を変えていただく取組も必要であると考え

Q 市独自の取組で、新規農業者の受け入れを

A 今年度、農地付き空き家の入居促進を行う

Q 秋月の桜は重要な観光資源であるが市の関わりは

A どのような状況なのか樹木の診断をしたい

平成22年度に指定された甘木地域と杷木地域の高いランクの区域である。

田中 保光 議員

質問項目

- 1 防災対策の拡充について
- 2 観光振興について



Q 災害に対応できるまちづくりについて、朝倉市は防災計画の充実を図るために、浸水想定区域・土石流危険区域・地すべり地域等を把握できているのか。

A 浸水想定区域は、洪水ハザードマップを作成している。土砂災害危険箇所は、

市は高齢者世帯が増加し、障害者を含め要援護者を自然災害から守り、被害の防止、軽減を図っていくには、自主防災組織の育成や指導は大事な事であるがどのような状況になっているのか。

A 23年度に自主防災組織を17地区に設立した。今後活動強化を図っていくことが重要と思っている。自主防災組織研修を行い防災意識の高揚を図っていく。

Q 17地区の地域防災組織は末端住民までの組織となっているのか。

A 今回は大本で今後は末端単位まで十分な見守りができる体制に繋がっていく。



観光客で賑わう杉の馬場通り

Q 観光資源の維持管理について。秋月杉の馬場通りの桜は長い年月を経て老木化し根本より枯れた木や枯れ枝の落下など危険性もあるが、これまで秋月の重要な観光資源としての役割を果たしてきたが、窓口を含め市としてどのようにとらえてあるのか。

A 窓口は商工観光課観光推進係となる。今植わっている桜は老朽化しているの

Q 大切な事務事業引き継ぎは大丈夫か。また、その時作るであろう「チエックリスト」と「ひな型」の活用で残業が減るといふ説についてはどう思うか。

A 普段から業務内容を資料化しておくように、指示している。また、職場会議



富田 栄一 議員

質問項目

- 1 市役所の組織と市民目線について
- 2 誇りある里山文化について

等を開催し、情報の共有化を図っている。

健康管理という面については「朝の残業」であつても、時間外なので極力行わないようにする。業務の「マニュアル化」「テンプレート（ひな型）」については、出来るところについては具体化して、取り入れていきたいと考える。

Q 祭りを地域振興につなげられないか。コミュニティの結束を高める内向きの祭り「結束型」と、観光客を多く受け入れる外向きの祭り「橋渡し型」がある。

もっと外側にどんないいところをPRしていくことで、朝倉市が元気になる。市民の頑張りを行行政の手で広げてくれることを望んでいるのではないか。市民祭りは市民対象で内向き、秋月、朝倉、原鶴で行なわれ

ている祭りは多く人がよから来るので外向きの祭りだと考える。商工観光課の役割はどのようにされているのか。

A 市のいいところを十分に発信するのが、商工観光課の役割。ただそこそこ、ああしなさいというふうにはならない。花の邪馬台国まつりは、商工観光課と実行委員会が一緒にやることで、ずっと今まで続いてき

Q 「頑張り」の発信をわかりやすく

A 広報戦略係をつくり、もう一段の充実へ



朝倉市の楽しい情報発信

Q 市有地の跡地について有効活用できないか

A 売却できるものは売却していきたい

である。

Q 跡地で有効活用できる土地は、早く売却してはどうか。

手嶋 栄治 議員

質問項目

- 1 プラン21について
- 2 優良農地について
- 3 水の文化村の今後の対応について
- 4 各所跡地利用に関する今後の対応について
- 5 公共下水道について

A 遊林地には、行政財産、普通財産があるが、行政財産の活用されていないものを含めて売れるものは売ってきたい。

Q 畜産団地跡地に建物が多く残っているが、市民に無償提供してはどうか。

A 種々問題点も指摘されているが、近隣の自治体等を調査して、可能であれば対処したい。

Q 朝農跡地グリーンテックノセンターを中心に、大相撲片男波部屋の九州場所宿舎として使用させていた

き、地域の振興と活性化の為に、大いに役に立ったと思う。全国各地に朝倉市の名を広げ、大相撲と観光、温泉を結びつけたらどうか。

朝農跡地での
片男波部屋の早朝稽古



A 地域の皆様方に喜んでいただけたと思う。特に、三奈木地区の皆様には、大変なお世話をいただいた。

私個人としては、朝農跡地に限らず、朝倉に来ていた

Q 朝農跡地には下水道が完備していない。跡地利用と下水道問題を、今後どう対応していくか。

A 概ね4～5年後に供用開始になる。施設整備と同時にやる。

Q 地震が起こったら、台風が来たら、水害があつたら、ダムが崩れたら、どこへ逃げたらよいか。

A 現在、自主防災組織が17カ所出来たばかりで、まだ機能していない状況であり、それぞれの対策を講じなければならぬ。今回、

Q 防災マップは、細かい情報、一人暮らし、ここが危険、今何かあればここを回って逃げる、そのような、地域の人々が力を合わせるようなマップか。



A 見守りまで含めたところの想定だと思う。避難支援プランは、朝倉市要援護見守り支援ネットワークを基本とし、自主防災マップに生かされるよう、もっと具体的に、小さなところで踏み込んで、経路まで踏み込み、自主防災組織の中

Q 各コミュニティの自主防災組織、最低用意しておくものは。また、情報伝達の体制は。

A コミュニティ組織が、イコール自主防災組織だと、全地区に網羅する。ケースに応じて、資材、機材、必要な分は、話し合いの中で進めていく。情報伝達としての防災無線は、出来るだけ聞こえるよう努力して広報したいと考えている。



陸前高田 一本松

力を合わせ

災害に強いまちづくり

Q 災害に強いまちづくり 自主防災組織避難支援

A 自主防災組織17カ所立ち上げ、機能していない

Q 国道322号八丁峠道路整備事業について

A 地元との協議を進める

(秋月地区)とは、情報の交換、会議等を行っている。

Q 嘉麻市側は、取付道の工事が始まっているが、この事業の概要は。完成はいつ頃か。

A 嘉麻市大力から朝倉市秋月野鳥に至る延長4千500mの道路を新設する計画。内トンネル長は3千791m、朝倉市側は1千75m。平成18年度に事業化され、平成20年度から用地買収及び工事に着手している。これは国の直轄事業であり、平成30年3月完成予定である。予算は167億円である。

Q これまでは、福岡都市圏からの観光客が多かったが、トンネル開通すれば、北九州方面からの観光客も見込まれる。秋月には新郷土館も建設され、また朝倉市は多くの観光地があり温泉地もある。これをビジネス

スチャンスととらえ対策を打っていくべきであると思うがどうか。

A 秋月を単なる通過点とせず、北九州方面からの朝倉地域観光の玄関口と位置付けたい。朝倉市の認知度を高め、全体的な考え方で観光客の増加に結び付けるため、積極的に情報発信をし、イベントやプロモーション活動もこれまで以上に充実させたい。



堀尾 俊浩 議員

質問項目

- 1 国道322号八丁峠(トンネル)工事について
- 2 ワンストップサービスについて

Q 国道322号の八丁トンネル工事については、市としては把握しているのか。市民には全く進捗状況が分からない。

A 担当部局は、国土交通省九州整備局北九州国道事務所。市は建設課が担当している。国、県そして地元



秋月を北九州方面からの観光の窓口に

Q 日本は世界一のがん大国と言われ、二人に一人ががんにかかっている。がんの原因として、喫煙、過度の飲酒や肥満など、生活習慣が指摘されているが、早期発見・早期治療が極めて重要である。特に、胃がんは毎年11万人が発症し、5万人が亡くなっている。最近の研究で、胃がんの原因の95%は、ヘリコバクター・ピロリ菌であり感染症であることが解つてきた。このピロリ菌を調べるには、簡単に安価な費用の血液検査で行える。ピロリ菌の健診と除菌で胃がんを予防し、撲滅の可能性が強いと言われている。市の住民健診にこのピロリ菌検査を導入して、胃がん対策に取り組んでいただきたい。



村上 百合子 議員

質問項目

- 1 健康朝倉市を目指す対策について
- 2 朝倉市の観光施策について

A 市の胃がん検診は、国の指針による胃部X線検査を実施している。ピロリ菌検査は、胃がん発生の危険性を知る目的で有効かもしれないが、現段階では、生活習慣の改善が大事と考える。将来的に、その有効性の実証が国の指針で示されたならば、健診に入れていくことになるかと考える。

Q 老朽化に伴い、新・秋月郷土館建設が計画されている。朝倉市の宝として、伝統ある秋月の歴史と景観の保全に努め、市民に親しまれる市民ボランティアの育成や、住民協働の事業として、地元の木材使用で郷土館の建設を望んでいる。

A 伝統的建造物保存地区にマッチした建物を考えている。

Q 胃がん予防にピロリ菌検査の導入を

A 現段階では生活習慣の改善が大事と考える

健康朝倉市を目指して
健診率アップを



秋月郷土館建設に
地元の木材使用を

Q 朝農跡地を太陽光で農業と観光、市民の憩いの場に

A 庁内検討委員会の答申を基本に進めていく

い。全体構想を早く打ち出すべきではないか。

A 今回の予算は土地や水の状況、物事を進める前提としての調査のための予算にとどまっている。

質問項目
1 朝倉市の将来の展望と行財政改革について

実藤 輝夫 議員



Q ここで私の考えを提案し見解を伺いたい。今年の7月に再生可能エネルギー特別措置法が施行される。

A 農業に関しては今後、農業関係団体と協議して進めていきたい。再生エネルギーについては、可能性があれば場所の問題としてどこでやるかということになる。意見として伺っておきたい。

太陽光発電、特にメガソーラーを設置し、ビニールハウス栽培に利用する。高騰する重油に変わる代替エネルギーとして、今後の新規就農事業に資する。余剰の電気は販売することで維持管理費に充てる。生産された園芸作物を加工販売、またレストランにて提供する。太陽光による花栽培を生かし、四季を通しての花園を設置、また、太陽光によるイルミネーションを年間通して様々に提供してい

Q 今回の庁内検討委員会の答申は、21年の基本方針とほとんど変わらない。県有地の減額譲渡1億500万円を一般譲渡として、1億8千650万円で購入した意味がない。総合体育施設ありきの計画では、朝農校友会の思いがくみ取られていない。

く。更に利用可能な建物に予防医療、子ども電気館、朝倉の歴史や伝統を紹介する歴史回廊等、観光客が訪れ、市民が楽しめる農業と観光と市民の憩いの場を朝農跡地に作るべきと思うがいかがか。



メガソーラーで農業と観光、市民の憩いの場に

Q 下水道事業等污水处理

馬田、甘木、立石等地区で計画の43%、秋月地区は23年度末に完了予定、朝倉地区は93%の整備率である。農業集落排水事業は完了。民間開発で美奈宜の杜が完了。個別排水処理事業は杷木全域、三奈木、金川、高木地区で整備率57%。污水处理人口普及率は22年度末で福岡県が87%、朝倉市が67%。福岡県内60市町村中30位である。事業完了目標は污水处理構想では当面、平成37年度を目標にしている。

A 公共下水道事業のうち

か。



稲富 一實 議員

質問項目
1 下水道事業について
2 汚泥再生処理センター稼働の現状について

Q 下水道施設の維持管理経費は受益者負担が原則であるが、朝倉地域の合併浄化槽は5年間の緩和措置となった。今後料金改定予定はあるのか。

A 稼働当初と比較し、22年度は93%の実績である。また、建設当時の地元協定等については、放流の流域の方に理解と協力をいただき、平成27年度までには環境整備実施を完了したいと考えている。

Q 下水道等污水处理、汚泥再生処理センター

A 普及率県内30位、汚泥センター行革検討

平成9年稼働の朝倉中央浄化センター



Q 行政評価の総予算は

A 3年間で1千200万円の契約、制度設計を行っている

た場合誰が最終決断を行うのか。

A 当然市長が行う。

公共空き施設について

質問項目

- 1 行政評価について
- 2 公共空き施設について
- 3 コミュニティビジネスについて
- 4 古民家再生事業について

Q 公共施設の空き施設の状況についてどうなっているのか。

A 本庁は無い。朝倉支所は3部屋程度。杷木支所は、1階に1部屋、2階に6部屋、3階に8部屋、計15部屋が空いている。

Q 杷木支所は約6千万円かけ雨漏り等の補修工事をしていて、空き施設は有効に使わないともつたいないがどうか。

A 経費的には6千7百万円程度、外壁工事でかかっている。また、2階、3階の空調が完備されていないので、経費の問題等、公共的なものとか、そういう事を総合的に判断して利用は考えていきたい。

古民家再生事業について

Q 朝倉市古民家を再生させて他の地区からの移住を斡旋し人口増に繋がらないか。

A 国でも施策があり、県内でも津屋崎や、糸島の方もそうした検討がされているということも聞いているが、今後の研究課題ということで認識をしている。



古民家再生で人口増につなげよう

Q 校友会と朝倉市が交わした覚書に、意見交換の場を設定するとある。まだ一回も開かれていない。

A 校友会の代表者なり、申し出があれば、検討する。

Q 朝農は、農業に貢献した学校であり、農業の発展に寄与するものを、一つの

柱に据えてほしい。食と農は跡地活用のキーワードになる。今回の基本調査費の4百万円の内訳はなにか。

A 全体的な調査をやっている経費を想定している。

Q 今後のスケジュールをお尋ねする。

A 24年度の途中でも、スケジュールをお示しい。

Q 全体像が出来ていないので、前に進まないのではないか。市長の明確な考え方を示してほしい。

A 総合的な体育施設という形は示した。農業問題も基本方針に書いている。

子どもと、向き合う時間を確保するために

Q 教職員の超過勤務の実態把握とその縮減に向けて、取り組みについて問う。

A 実態を把握はしていないが、認識はしている。校長会や文章で通知し、学校全体で超過勤務を削減する継続的な取り組みをお願いしている。

Q 今後の教職員の超過勤務の改善策についてはどうか。

A 出来るだけ、無駄をなくし、子どもと向き合う時間を増やしたいと思う。遊びの場面が一番減ってきているので、今後確保出来るようにしたい。



朝農跡地活用方針の早期実現を

Q 朝農跡地基本計画の今後について問う

A 具体的には、24年度の途中でも示したい